

千歳市地域公共交通計画の変更について

1. 目的

市内路線バス事業は、運転手の高齢化が進み、慢性的に運転手不足の状態が続いてきたところ、コロナ禍が追い打ちとなり、一部の便で減便が生じるなど、日を追うごとに深刻化しているほか、人件費や燃料費の高騰に伴い、事業者の運行経費も上昇傾向にある。将来にわたって持続可能な公共交通を維持・確保するため、運行経費に見合った運賃の見直しのほか、運転手不足に対応する自動運転バスやAI オンデマンド交通などの新たな交通システムの導入、運転手確保に向けた取組などについて検討を進める必要があることから、令和3年11月に策定した千歳市地域公共交通計画の変更を行うこととする。

2. 根拠

同計画は、「評価の考え方」において、基本的に5年毎に見直すこととしているが、社会情勢の変化や取組の進捗状況により、必要に応じて計画の見直しを行うこととしていることから、今般の「運行経費の上昇」や「運転手不足」等の情勢の変化に対応し、変更を行うもの。

3. 概要

(1) 人件費や燃料費の高騰に伴う運賃の見直し

基本目標「利便性・採算性・公共性のバランスを考えた運行体制の構築」

― 事業「路線バス運賃の見直し」

の取組として「人件費や燃料費に伴う運賃の見直し」を新設する。

(2) 運転手不足に対応する新たな交通システムの導入

基本目標「利便性・採算性・公共性のバランスを考えた運行体制の構築」

― 事業「地域の実情に合った公共交通手段の導入検討」

の取組として「運転手不足に対応する新たな交通システムの導入」を新設する。

(3) 退官予定の自衛官を対象とした合同就職説明会の開催

基本目標「行政と交通事業者が連携した若い世代などへのPR」

― 事業「公共交通の広報・PR活動」

の取組として「退官予定の自衛官を対象とした合同就職説明会の開催」を新設する。

4. 変更日

令和6年3月4日

基本目標	事業名	取組	事業スケジュール					実施主体
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
バス路線の見直しや公共交通利用環境の整備	千歳駅前広場再整備	①交通結節点として、利便性、安全性、公共性に配慮した整備の実施	実施					千歳市
		②くつろぎ賑わう空間の創出	実施					千歳市
		③市民や来訪者が集う拠点として、情報発信機能を強化	実施					千歳市
		④中心市街地の活性化と連携した整備の検討	検討					千歳市
	バス路線の見直し	①バス路線の再編	実施					千歳市、交通事業者
	バス路線名の見直し	①分かりやすいバス路線名への見直し	実施					千歳市、交通事業者
	需要に応じたバスダイヤの見直し	①バスダイヤの見直し	実施					千歳市、交通事業者
	キャッシュレス決済方法の導入促進	①多様な決済方法の導入	検討・協議					交通事業者
	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策	①路線バスやタクシー車内の抗ウイルス・抗菌対策	実施					千歳市、交通事業者
バス運行情報の標準化	①バス運行情報のGTFS-RT(リアルタイム)化	実施					千歳市、交通事業者	
千歳市独自の運賃制度	①利用のしやすい運賃サービスの実施	実施					千歳市、交通事業者	
利便性・採算性・公共性のバランスを考えた運行体制の構築	バス路線の見直し（再掲）	①バス路線の再編	実施					千歳市、交通事業者
		②新規バス路線導入に向けた実証運行	検討・協議					千歳市、交通事業者、市民
		③地域公共交通確保維持事業を活用したバス路線の維持確保	実施					千歳市、交通事業者
	路線バス運賃の見直し	①市民病院プール線の本格運行に伴う運賃の見直し	実施					千歳市、交通事業者
		②人件費や燃料費の高騰に伴う運賃の見直し			実施			千歳市、交通事業者
	需要に応じたバスダイヤの見直し（再掲）	①バスダイヤの見直し	実施					千歳市、交通事業者
地域の実情に合った公共交通手段の導入検討	①公共交通不便地域の交通手段確保	実施					千歳市、交通事業者、市民	
	②運転手不足に対応する新たな交通システムの導入			実施			千歳市、民間企業、交通事業者	
利用者の属性に応じた公共交通利用促進策の実施	利用者の属性に応じた利用促進策の実施	①ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入促進	実施					千歳市、交通事業者
		②千歳駅前広場再整備に合わせた情報案内の見直し	着手予定					千歳市
	来訪者を対象とした情報発信の強化	①国内観光客向けの情報発信	検討・協議	実施				千歳市、交通事業者、観光事業者
		②外国人観光客向けの情報発信	検討・協議	実施				千歳市、交通事業者、観光事業者
行政と交通事業者が連携した若い世代などへのPR	公共交通の広報・PR活動	①仕事のやりがいや社会的役割等の広報	実施					千歳市、北海道、交通事業者、運輸局、教育機関
		②就職イベント等とのタイアップ	実施					千歳市、北海道、交通事業者、運輸局、教育機関
		③小中学生等を対象としたイベントや情報発信	実施					千歳市、北海道、交通事業者、運輸局、教育機関
		④退官予定の自衛官を対象とした合同就職説明会・運転体験会の開催			実施			運輸局、千歳市、交通事業者、自衛隊
情報発信の強化などによる公共交通意識の醸成	モビリティ・マネジメント施策の展開	①ノーカーデーの実施	実施					千歳市、市民、交通事業者、民間企業、市民団体、観光事業者、警察、教育機関
		②公共交通利用促進キャンペーンの実施	実施					千歳市、市民、交通事業者、民間企業、市民団体、観光事業者、警察、教育機関
		③高齢者運転免許証自主返納サポート制度の実施	実施					千歳市、市民、交通事業者、民間企業、市民団体、観光事業者、警察、教育機関
	バス利用目的の創出	①企画乗車券の販売	検討・協議	実施				千歳市、民間企業、商業施設、観光事業者、交通事業者
多様な交通手段の活用に向けた関係機関との継続的な協議	将来における多様な交通手段の活用可能性の検討	①多様な交通手段の実態把握	実施					千歳市、民間企業
		②多様な交通手段の活用可能性の検討		実施				千歳市、民間企業

5. 目標達成に向けた取組と実施主体

設定した基本目標を達成するため、今後5年間で実施する取組について、その内容と実施主体、事業スケジュールを以下に示します。

5.1. バス路線の見直しや公共交通利用環境の整備

事業名	千歳駅前広場再整備
事業概要	<p>①交通結節点として、利便性、安全性、公共性に配慮した整備の実施【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JR や路線バス、タクシー、自家用車、送迎バス、歩行者、自転車等が結節する拠点であるため、それぞれの乗り換えや施設への接続が容易にできるよう、歩行者の移動の動線を見直します。 ● バス専用道路では車両走行路の歩行者乱横断が多発しているため、歩行者の安全確保のため、JR 千歳駅西口のバスの走行ルートを見直します。 ● 歩行者動線上には、待合環境の向上のため、バスシェルターの設置を検討するほか、広場全体のバリアフリー化を図ります。 ● デジタルサイネージを活用し、乗換案内等の充実を図ります。 <p>②くつろぎ賑わう空間の創出【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民等の滞在時間を延ばすため、イベントスペースを確保し、キッチンカー等を活用した賑わい空間の創出について検討します。 ● JR 千歳駅がまちの顔としてふさわしい景観となるよう、JR 北海道との協議を推進します。 <p>③市民や来訪者が集う拠点として、情報発信機能を強化【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駅周辺施設等への案内看板は、誰もが分かりやすい表示方法に改善します。 ● 広域的な情報や地域の魅力を発信するため、観光情報を集約した案内所の設置を検討します。 <p>④中心市街地の活性化と連携した整備の検討【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駅利用者の中心市街地への誘導など、商業的な視点から駅周辺地域の活性化を図るため、効果的な整備手法について関係者と検討を行います。
実施主体	千歳市

事業名	バス路線の見直し
事業概要	<p>①バス路線の再編【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民アンケート結果や社会環境の変化による利用実態の変化、新型コロナウイルス感染症の影響などを踏まえ、利便性・採算性・公共性のバランスが取れたバス路線へと再編を検討・実施します。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	バス路線名の見直し
事業概要	① 分かりやすいバス路線名への見直し【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ● 乗車するバスがすぐに分かるよう、行先に合った分かりやすい路線名への名称変更を検討します。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	需要に応じたバスダイヤの見直し
事業概要	①バスダイヤの見直し【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ● 利用実態や市民の移動ニーズに合わせたバスダイヤの再編を検討・実施します。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	キャッシュレス決済方法の導入促進
事業概要	①多様な決済方法の導入【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ● 北海道中央バスは IC カード決済、千歳相互観光バス、道南バス、あつまバスは QR コード決済を導入しています。バス利用者の更なる利便性向上に向けて、ICカードやQRコードなど多様なキャッシュレス決済方法の導入についてバス事業者と協議・検討を行います。
実施主体	交通事業者

事業名	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策
事業概要	①路線バスやタクシー車内の抗ウイルス・抗菌対策【継続】 <ul style="list-style-type: none"> ● 千歳市では、令和2年度に、市民が安心してバスやタクシーが利用できるよう、手すりや座席など車両内全体に抗ウイルス・抗菌加工等を行う公共交通事業者に対する支援を実施しました。令和3年度以降は公共交通の安全性のPRを行うほか、状況に応じて、公共交通事業者と協力し、安心・安全な公共交通利用環境の確保に向けた取組の検討を行います。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	バス運行情報の標準化
事業概要	①バス運行情報のGTFS-RT(リアルタイム) ^{※1} 化【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ● バス運行情報が標準化されたデータをWEB上に一般公開することで、様々な既存アプリ等で情報を取り込むことが可能になります。これにより、現在のバスロケーションシステム(ちーなび)に代わる新たなサービスを提供します。本市ではバス事業者による運行情報のGTFS-RT化を支援します。 <p style="text-align: right;">※1：国が作成した遅延情報やバス位置情報など動的情報の標準フォーマット</p>
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	千歳市独自の運賃制度
事業概要	<p>① 利用のしやすい運賃サービスの実施【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 乗車地点から約 1.3 kmの運賃を 100 円とする「チョイ乗り 100 円運賃」や、乗継しなければ目的地へ辿り着けない方への「乗継チケット」、利用が少ない時間帯の利用促進策として「シルバーおでかけパス」などの制度を継続できるようにバス事業者と協議を行います。
実施主体	千歳市、交通事業者

5.2. 利便性・採算性・公共性のバランスを考えた運行体制の構築

事業名	バス路線の見直し（再掲）
事業概要	<p>① バス路線の再編【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民アンケート結果や社会環境の変化による利用実態の変化、新型コロナウイルス感染症の影響などを踏まえ、利便性・採算性・公共性のバランスが取れたバス路線へと再編を検討・実施します。 <p>② 新規バス路線導入に向けた実証運行【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バス路線の新設に当たっては、実証運行などで利用需要を確認し、利用者のニーズを検証して本格運行への判断を行うこととします。 <p>③ 地域公共交通確保維持事業を活用したバス路線の維持確保【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 桜木線及びみどり台線は、いずれも平成 28 年の路線再編により導入された路線であり、重複しているバス路線がなく、沿線住民の通勤や通院、買い物などの日常生活に必要な路線であることから、各施策において利便性の向上や利用者増加などを図っているほか、平成 29 年度から地域公共交通確保維持事業による地域内フィーダー系統の補助対象に位置づけ、国庫補助金を活用しながら、路線の維持・確保を図ります（路線図は P 20 参照）。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	需要に応じたバスダイヤの見直し（再掲）
事業概要	<p>① バスダイヤの見直し【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バス路線の再編や市民の移動ニーズに合わせたバスダイヤの再編を検討・実施します。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	路線バス運賃の見直し
事業概要	<p>① 市民病院プール線の本格運行に伴う運賃の見直し【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民病院プール線は、平成 28 年度から試験運行の位置付けで 100 円運賃を導入していますが、一定の利用が確認できたことから、本格運行とするため、適正な運賃を設定します。 <p>② 人件費や燃料費の高騰に伴う運賃の見直し【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 乗合バス事業者の運行単価は、人件費や燃料費の高騰により、上昇傾向にあるほか、運転手の待遇改善も必要であることから運賃の見直しを検討する。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	地域の実情にあった公共交通手段の導入検討
事業概要	<p>① 公共交通不便地域の交通手段確保【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 路線バスが運行していない地域における公共的な移動手段を確保するため、デマンドバスと定期貸切タクシーが運行しています。既存のサービスについては、運行地域住民への周知や利用促進を図り、地域のニーズや利用状況を踏まえた交通手段の確保に努めます。 <p>② 運転手不足に対応する新たな交通システムの導入【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来にわたって持続可能な公共交通を維持・確保するため、運転手不足に対応する自動運転バスや AI オンデマンド交通などの新たな交通システムの導入について検討を進める。
実施主体	千歳市、交通事業者、市民

5.3. 利用者の属性に応じた公共交通利用促進策の実施

事業名	利用者の属性に応じた利用促進策の実施
事業概要	<p>① ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入促進【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市では、国の地域公共交通バリア解消促進等事業（バリアフリー化設備等整備事業）等と協調し、UD タクシーの導入促進を図るための補助制度を創設しています。今後も、補助制度の周知等を行い、誰もが使いやすい公共交通の実現に向けて導入の促進を図ります。 <p>② JR 千歳駅前広場再整備に合わせた情報案内の見直し【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JR から路線バス及びタクシーへの乗り換え利用者に対し、シンプルで分かりやすい情報を伝えるため、情報案内の見直しを行います。
実施主体	千歳市、交通事業者

事業名	来訪者を対象とした情報発信の強化
事業概要	<p>① 国内観光客向けの情報発信【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港の運営管理者等と連携し、新千歳空港を訪れた観光客に対して千歳市の観光情報と公共交通情報を併せて提供することで、観光振興と公共交通の利用促進を図ります。 <p>② 外国人観光客向けの情報発信【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国人観光客の利便性向上・利用促進に向けて、提供するバス情報の多言語化を進めます。また、GTFS-RT 化した路線バスの運行情報を活用し、外国人向けの情報提供サービスを検討します。
実施主体	千歳市、交通事業者、観光事業者

5.4. 行政と交通事業者が連携した若い世代などへの PR

事業名	公共交通の広報・PR 活動
事業概要	<p>① 仕事のやりがいや社会的役割等の広報【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通事業の社会貢献度や必要性を広く知ってもらうため、千歳市の関係部署のほか、北海道や北海道運輸局などと共同で、リーフレットの配布やポスターの掲示などを実施します。 <p>② 就職イベント等とのタイアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道内外で行われる就職イベントや定住促進イベント等において、ポスターやチラシなどを活用し、交通事業者と連携して乗務員募集などのPRを行います。 <p>③ 小中学生等を対象としたイベントや情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来の公共交通利用者の増加や担い手の確保に向けて、イベント会場でのバス展示や出前講座などの実施により、公共交通に触れる機会の創出を検討します。 <p>④ 退官予定の自衛官を対象とした合同就職説明会・運転体験会の開催【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 路線バスやタクシーの運転手不足の対策として北海道運輸局が開催する退官予定の自衛官を対象とした合同就職説明会の運営支援を行う。
実施主体	千歳市、北海道、交通事業者、運輸局、教育機関

5.5. 情報発信の強化などによる公共交通意識の醸成

事業名	モビリティ・マネジメント施策の展開
事業概要	<p>① ノーカーデーの実施【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 北海道においては9月20日のバスの日にちなんでノーカーデーの取組を実施しており、千歳市においても、職員向けにバス利用促進等の取組を行っています。今後も北海道と連携しながら取組について幅広く周知するとともに、低炭素社会の実現に向け、自家用車の過度な依存を解消につながる取組を実施します。 <p>② 公共交通利用促進キャンペーンの実施【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 路線の再編等、新たなバスサービスを広く市民等に周知するため、市の出前講座やバス事業者との連携による各種PR活動の実施など、様々な機会を創出し、市と交通関係者が一体となった利用促進キャンペーンを展開するほか、市民や公立千歳科学技術大学等の関係団体と連携し、利用促進に向けたイベント等を実施します。 <p>③ 高齢者運転免許証自主返納サポート制度の実施【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の移動を自家用車に頼らざるを得ない高齢者が存在する一方で、高齢者による交通事故の割合も増加していることから、警察等の関係機関と連携し、高齢者の自主的な自動車運転免許の返納を促す取組を令和元年度から開始しており、今後も継続して行います。
実施主体	千歳市、市民、交通事業者、民間企業、市民団体、警察、教育機関

事業名	バス利用目的の創出
事業概要	<p>① 企画乗車券の販売【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 路線バスの利用を促進するため、市内で開催されるイベントや商業施設と連携し、様々なアイデアを生かした企画乗車券の販売について、交通事業者や観光事業者、商業施設等と検討します。
実施主体	千歳市、民間企業、商業施設、観光事業者、交通事業者

5.6. 多様な交通手段の活用に向けた関係機関との継続的な協議

事業名	将来における多様な交通手段の活用可能性の検討
事業概要	<p>① 多様な交通手段の実態把握【新規】</p> <ul style="list-style-type: none">● 路線バスなど、既存公共交通の維持が困難となった場合を想定し、多様な交通手段の導入検討の基礎資料とするため、市内におけるスクールバスや企業送迎バス等の運行・利用状況などの実態把握を事業者と協力して行います。 <p>②多様な交通手段の活用可能性の検討【新規】</p> <ul style="list-style-type: none">● 実態把握の結果、明らかとなった多様な交通手段の運行主体に対し、公共交通の一部として活用できる可能性や課題、方法について意見交換を行います。● 路線バスの廃線等により、これまでの公共交通サービスの維持が困難となる地域が発生した場合には、具体的な活用に向けてバス事業者や多様な交通手段の運行主体と協議を行います。
実施主体	千歳市、民間企業